



新年のご挨拶



“せつもく”を実感して形に

新年あけましておめでとうございます。

NPO日本朗読文化協会も昨年「朗読の日」15回目を公演し、ある意味で節目の年でした。この節目は“せつもく”とも読むようです。将棋の藤井棋士がその読み方を

されたと、新聞のコラムに書いてありました。そのコラムの執筆者すらその読み方を知らなかったそうです。

藤井棋士は常に難しい漢字や熟語をよく使われていて、それは大変な本好きであることが起因しているようです。さすがに一つの世界でナンバーワンになると言う方はどこか人とは違う光るものを持っているのでしょうか。しかも“本が好きで”というのは素晴らしいですね。若い人達に本の素晴らしさを是非

知ってもらいたいですね。そのためにNPO日本朗読文化協会は何が出来たかを考え、実行していくのが大きな役割だと、この15年を迎えての“せつもく”に実感しています。

昨年は少しでもたくさんの会員に入会していただきたいと昨年新入会員の会費を年12,000円に設定しました。今年からは既に会員の方の年会費も値下げをすることが決まっております。

その他NPO日本朗読文化協会のあり方、今後の形なども真剣に検討しておりますので、それがだんだんと具体的になってくるのが本年でございますので、どうぞ会員の皆様にはいろんな意味でNPO日本朗読文化協会をお支え頂きたいと心よりお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願い致します。

(NPO日本朗読文化協会 理事長 城所ひとみ)

本にまつわるエッセー



犬の耳?

河崎早春

新年あけましておめでとうございます。

今年は戌年。英語で言えばドッグイヤー?ん? では年頭の話はそのドッグイヤーから参りましょう。と言っても干支の話ではありません。イヤーは「年」ではなくて「耳」のこと。気になるページがあると、よく本の耳…つまりページの隅を折ったりしますよね。それで、本にマークすることを、ドッグイヤーって言うんですって。ご存知でした?

調べ物をするときは、耳を折る他に、付箋、書き込みなど、様々な方法で本に印をつけることがあります。本を整理していると、名刺やメモ、何かの包み紙、新聞の切り抜き(時にはお菓子のかけら)などが挟まっていたりして、思いがけないタイムマシン気分を味わうことができます。

古本を買って書き込みがあると、大抵はあまりいい気分はしないけれど、ちょっと洒落たことが書かれていたりすると、どんな人が持っていたのか想像して、顔も知らないその人に妙に親近感を感じてしまうこともあ



ります。

引越しをするのに本を整理していて、亡父の本の中からたくさんの書き込みを見つけました。

アンドレ・ジイドの「狭き門」には、ブロンズとか、ブルブルなど色の表記があるのですが、当時耳慣れなかった外国の色毎に一枚のメモが入っていて、本や事典を調べたらしく、色の説明が詳しく書かれ、しかもそのために父はフランスの色名帖まで買い込んで色見本として貼り付けてあるのです。

こんなユニークなメモは父の本からたくさん出てきました。短編集の中の気に入った話、句集のお気に入りにも丸印がついているし、物語に出てくる家の間取図、手書きのイラスト、感想等々、一緒に眺めていると俄然楽しくなってきます。

ある伝記が、旧版と新版の二冊もあるので不思議に思ってよく見ると、旧版から新版にするときに削られた箇所が、青い万年筆でびっしりメモ書きとして貼ってあります。夫婦の不仲や、奥方に対する不服が書かれているところがザックリ削られているのがわかります。親族があとから抗議してこうなったのでしょうか。そんな経緯も、メモによって知らされてニヤリ。思わず秘密を覗いた気分になりました。

引越しで大量の本を処分しなければならず、涙を飲んで一部は電子化しました。しかし古い本には、その本を手元に置いて過ごした年月、持ち主との思い出も詰まっています。どんなにデジタル社会になっても、本を手にとって五感で感じる喜びだけは、いつまでも変わりませんように…。

4月から年会費が12,000円に値下げになります。3月より事務局が移転します。

詳しくは6ページ(最終ページ)をご覧ください。

第10回「朗読アラカルト」



10年偉大なり、20年畏るべし

倉田ひさし

なにはともあれ、「おかげさまで」の一言です。

昨年12月20日(水)に、「第10回朗読アラカルト」を無事に終えることができました。

体調をくずして休養中の演出家・飯田輝雄さんのピンチヒッターとして演出を担当し、わたし自身もふくめていくつか反省点はありましたが、皆さんのご協力とご努力のおかげで、楽しくステージづくりをすることができました。

「おかげさまで」。そして、「ありがとうございました」。

今回は第10回という節目の年でしたので、その「10」にちな

み、A～Dの各ステージで夏目漱石の『夢十夜』から一編ずつ選んで朗読をする試みをしました。10回を数えた時の流れに、ひしひしと重みを感じます。

中国のことわざに「10年偉大なり、20年畏るべし、30年歴史なる」という言葉があります。ひとつのことを長年つづければ大きなことができ、やがては歴史の一ページになるごとく大きく成長できるという意味です。まさに「継続は力なり」。

「朗読アラカルト」も、10年の一区切りを超え、次のステップはさらなる飛躍に向けて「20年畏るべし」を目指しましょう。

ただし、「築城10年落城1日(こつこつ長い時間をかけてやっと築き上げて、瓦解するときはあっという間)」ということわざもありますので、ゆめゆめ油断することなかれ！



第10回「朗読アラカルト」のチラシ



Aステージのフィナーレ



Bステージのフィナーレ



Cステージのフィナーレ



Dステージのフィナーレ

初参加の方たちの感想



初参加の為、事前の準備や当日の打合せ等々初めての事ばかりで、また、出演順がAステージの1番目と言う事で緊張しておりました

が、先生方のご指導、役員さんや先輩の方々のアドバイスやお気遣いを頂き、楽な気持ちで舞台に立つ事が出来ました。本当にありがとうございました。本番では、読み終わって舞台から戻った時に、先輩方から笑顔で迎えて頂いてホッとしたのと、観客の方々への感謝の気持ちで一杯になり、ちょっとホロリと。そして、役員さんやお手伝いの方々のご苦勞は大変なものと、参加させて頂いて改めて感じました。今後は私も少しでもお手伝い出来ればと思います。また、皆さんの朗読も聴く事ができ、貴重で楽しいひと時でした。(中村純子)



アラカルトは、プロの演出・音響・照明で見ごたえ、聞きごたえある舞台になります。本読みは1回のみですが、練習を重ねて自分の世界を表現しきった皆さんの表情はとても晴れやかでした。

新人・ベテラン・また非会員の参加もあり、朗読のジャンルも様々。そこが魅力なのか「昼食もとらずに最後まで全ステージ聞きました」「面白かったので来年も是非来ます」「肉声が聞きたい」等、感想もアラカルト。好評でした。

年の瀬。しかも平日。そして450席の会場。スタッフ一同集客を心配しましたが、皆さまのおかげで、約230人ものお客様を迎えられ、震災義援金も、11,540円も送金することが出来ました。

今回飯田輝雄氏が加療中で、倉田ひさし氏演出になりましたが、台本から当日までの倉田氏の細やかな配慮の中、出演の皆さんは安心して本番に臨めた様子でした。

また、当日スタッフ・各担当の皆さんは、手作りのブローチを胸にして協力しあい、その結集力で第10回アラカルトを成功裡に終えることが出来ました。

心から有難うございました。

さあ！ 第11回はあなたの出番です！！

(担当 佐々木富紀)



30数名のたくさんの方が出るので、4つのステージに分かれているので、出演者にも聴いて下さる方にも負担が少ない良い形だと思いました。当日の舞台は、私の都合で事前の本読みを欠席してしまいぶっつけ本番で、又、椅子の位置の急な変更があったりで、少々パニック気味でした。友人達の感想も、奥の椅子の照明が暗く、あまりよく見えなかったというものでした。それで、先輩の皆様が読みや衣装の工夫等、準備を充分になさることを見習い、私も心掛けなければと学びました。そして、なにより、舞台の外での先輩の皆様のお優しいお気遣いに感激しております。(菅野和子)

第8回「声に出す平和への祈り ジョー・オダネル写真展 & 朗読会」(NPO日本朗読文化協会主催、港区共催)を、昨年9月29日～10月3日の期間、港区立高輪区民センター2Fギャラリーに於いて開催致しました。今回は朗読講師連絡会が企画制作を担当し、これまでの「声に出す平和への祈り」とは違う形——5日間連続で写真展開催と毎日2回の朗読会(計10回)を行なうということに挑戦致しました。

当日を迎えるまでには初めてのことも多く試行錯誤の連続でしたが、港区をはじめ多くの方々のご協力を賜り、期間中には多くの協会員の方々もスタッフとして参加して下さい、結果720名もの来場して下さいました。ここにアンケートの

一部が掲載されていますが、本当に率直なお言葉をたくさんいただきました。私たちの願いであった小学生をはじめとする学生の方々の来場も思っていた以上にあり、嬉しいことの一つとなりました。

世界中の人々が平和への思いを決して忘れてはならないとあらためて強く感じる今だからこそ、ジョー・オダネル氏の撮った写真を見ていただき、オダネル氏の写真集の中に綴られている文章の朗読を聴いていただく…目と耳の両方から感じていただく今回の「声に出す平和への祈り」は、よりダイレクトに、平和の大切さが皆さまに伝わったのではないかと感じております。(朗読講師連絡会 代表 渡部玲子)



▲超満員になったホール。 ▶そして写真展。



《声に出す平和への祈り》アンケートより

●子ども達にも聞かせてやりたいと思います。NPO日本朗読文化協会のことも始めて知り、朗読を通して平和の運動を行っていることに感動しました。又、品川区の中学生にも聞かせたいです。
…52歳女性(品川区在住)

●広島出身です。始めて参加しました。今後も平和への祈りの運動を続けていっていただきたいと、強く思いました。小学生や、中学生にも見て聴いてもらいたいと思います。チラシを品川区内の小中学校へも配布されることを望みます。
…40歳女性(品川区在住)

●朗読には「心から心へ」と考えていることを聴者に伝えるという効果があると思いました。講義で居眠り学生が多いが、もっとせりふの内容を厳選し、朗読スタイルを取入れたら、もっと上手に内容を若者に伝えられるかと思いました。
…69歳男性(東久留米在住、東アジア近現代史の大学教授)

●「焼き場の少年」の写真は初めて見た時の衝撃は忘れられません。今回、オダネル氏の写真展が開催されるという話を子供の通う小学校からのチラシで知り、是非拝見したいと思っていました。写真という限られたもの、ですが印象に残る情報を見て、その奥にある様々なドラマ(現実)が想像され、何とも言えない気持ちになりました。折りしも最近、日本周辺では不穏な空気が流れる中、今一度平和について考えてみたいと思います。
…46歳男性

●教科書、TV色々な事で私は戦争を知ったつもりになっていた。しかし今日の朗読を聞き、新たな形で戦争に触れた気がした。オダネル氏が日本に訪れ、徐々に憐み、原爆の悲惨さを知っていく様子は私の胸を強く打った。同時に彼の声を巧みに伝える朗読者さん達の高い技術に感動した。しかし私の感動は、

隣のお爺さんが公演中泣いていたのに比べ、それ程でなかった。若い世代の私達が、このような話を強く受け止めることが出来なかったら、また戦争が起こってしまうかもしれない。私は、これからも平和を考える朗読会に参加する必要があると強く認識しました。今日はありがとうございました。…若い世代女性

●今日はオダネルさんの写真を見ることが出来てとてもよかった。写真を見て改めて戦争はいけないと思った。新聞やニュースで見るのとは違った形で私の心に残る写真展でした。

…16歳高校1年(世田谷区在住)

●心に沁みました。決して戦争は繰り返してはいけません。平和であることを願います。子連れで来ましたが、五歳の娘にはまだ難しいようです。子ども向けに優しい説明文があると教育しやすいです。
…32歳女性(北区在住)

●戦争は起こってほしくないです。
…9歳小学生

●皆様、素晴らしいです。まず、声が良い！ 私は低いからだめかも。写真を見ながら聞きましたら、又、又、感動！ 興味あるフォトでジョーさんの考えが良く分かりました！ 又、「英文」でもよく理解できて良かった。
…60歳女性(麻布在住)

●8回も平和の朗読会を続けている活動に心より敬意を表します。ありがとうございます。あの少年の写真を含め何度も写真展で目にしてはいますが、涙なしに見ることはできません。オダネルさんの熱い人としての真直ぐなやさしさ、勇気に心から拍手を送ります。私たちが繋いでいくことの大切さを知らせてくれました。“私達も忘れません。”
…70歳女性(芝浦在住)

●「トランクの中の日本」は一度読んだことがありますが、朗読で聞くと読むのとは違った趣があり、感銘した。

…65歳男性(横浜市在住)



●とても良かったです。静かに心にしみてきました。

…女性（江戸川区在住・日本語教師）

●ジョー・オダネル氏の活動を代弁する静かな朗読に感動しました。素晴らしい活動、次世代に残す、伝える為にも是非これからも続けていかれますよう祈ります。

…71歳女性（高輪在住）

●朗読会で聞いて、写真を見て、改めて戦争は二度とやらないことで、平和が何より大切だと実感しました。最近国語で、“おとなになれなかった弟たちに”をやった時もすべてが壊れていって恐ろしいものだと感じました。今日来て良かったです。

…学生（新聞・情報誌を見て）

●とても素晴らしかったです。パネルを読んだ以上に情景が浮かんで涙がとまりませんでした。私が子供の時は、TVや子供向けの映画会でも原爆のこと、戦争のことをたくさん見てきました。子供達にそのことを伝えてこなかったことを反省し、今回娘を連れてきました。このような会に参加させていただいて本当に良かった。

…娘連れの女性（新聞・情報誌を見て）

●この活動は続けていかなくてはいけないと思った。本はなかなか手に取ってもらえないが、声は直に届く。口から伝えることは小さな力かもしれないが一番大切な事である。写真と一緒に聞けたので、より伝わってきた。音読ではない心のこもった、魂のこもった朗読でした。

…女性（西東京市在住）

●ジョー・オダネル氏の温かい人間愛、とても深く伝わって参りました。これからも大勢の方にお伝えになって下さいませ。メンバーの皆様の美しいお声と静かなバックミュージック素晴らしい企画でございました。

…70代女性

●はっきりと聞きやすい声で内容が分かりやすかったです。写真も同時に見ることができ、戦争の恐ろしさ、原爆の恐ろしさがよくわかりました。

…50歳女性（高輪在住・主婦）

●あらためて、げんばくはひどい物だなと思いました。せんそうはざんこくで何のつみのない人が次々と亡くなっていくのは、とてもおそろしいことだと感じました。

…10歳女子（高輪在住・小学生）

●大変良い企画でした。写真は真実をそのまま語るものです。原爆投下後、馬に乗りながら、色々な角度からアメリカ人として撮られた写真は、心をうつものがありました。皆様の朗読も大変良かったです。

…女性

●きてよかったです。勉強になりました。

…12歳女子（御成門小学校6年）

●朗読会というものに初めて参加させていただきました。今日来てことができるとても良かったです。ありがとうございました。

…47歳女性（浜松町在住）

●「焼き場に立つ少年」の写真が衝撃的でした。とても勉強になりました。

…43歳女性（江東区在住・会社員）

●「焼き場に立つ少年」の写真が、私は初めて知ってより何か

それに関連する催しには足を運んでいると言った感じです。朗読とのコラボは初めてでしたが、やはり、この一枚の時には、その経緯を知っていても涙が流れ、平和を思いました。やはり朗読の力ですね。どうぞ頑張ってください。

…60歳女性（南麻布在住）

●この話を聞いて絶体、戦争をしたくないと思いました。

…9歳女子（世田谷区在住）

●どの方も静かな語り口で、ひき入れられるようなやさしさがあり、気持ちがおだやかになりました。私は、戦後7年目から2年ほど広島で暮らした経験があります。まだまだ原爆のつめ痕が残る時を見て来ましたので、今日の朗読会は、とても心に残るものでした。

…73歳女性（六本木在住）

●一昨日、旅行先の長崎から帰ってきたばかりで、爆心地も訪ねてまいりましたので、目に浮かびます。4月には広島も訪問しましたので、今年は考えさせられることの多い年でした。朗読もそれぞれの情景がよくわかり、心に響きました。ありがとうございました。

…女性

●感動しました。昭和15年生まれで、幼少の時、父の帰還の時を思い出しました。

…77歳女性（大田区在住）

●1945年私は6歳、原爆の被害には会いませんでしたが、戦争中のこと、東京空襲の日のことを鮮明に思い出しました。この写真の数々により、原爆の凄さ、何の罪もない人々がこのような形で生命を失う戦争を二度と起こしてはならない。平和な人類の歴史を！と祈らずにはいられません。核兵器廃絶のために一人一人が深い意識と祈りをもって、できることをしていかなければ、人類の未来は…という思いです。

…78才女性

●心に響く歌に涙し、これから朗読を始めたいと思い、こちらに伺い学ばさせていただきました。写真から迫り、訴える戦争の悲惨は、伝えていかなければならないと思います。今日は心からありがとうございました。

…M・F（佐倉市在住）

●朗読ありがとうございました。戦争のむごさというものを改めて実感できました。私も後世にこの話をしていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。

…S・N

●ずい分前から、あの男の子が赤ん坊を背負った写真から心が離れなくなりました。本を買えば、いつでも開いて見れるのにそれはしていません。東京新聞で知って、駆け付けました。朗読も写真をその都度入れかえるのも大変良い構成だと思います。いつも静かに順番を待つ姿勢は今でも変わらず、3.11の時も福島の人々はそうして礼儀正しく事態と向き合ったのです。

…M・N（練馬区在住）



「声に出す平和への祈り」担当

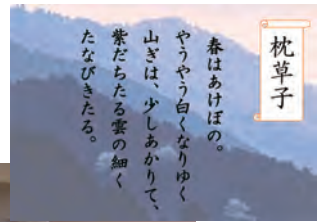
2017年 古典朗読訪問記

古典は不朽のロングセラー～かぐや姫から俳句まで～

「皆さん、相撲、将棋、かき氷 この三つの共通点は何だと思いますか？ 共通しているのはどれも千年以上も前から日本人に愛され親しまれ、長く受け継がれてきたスポーツとゲーム。そしてかき氷は昔は貴族の食べ物で、平安時代の『枕草子』にも登場するんですよ」で始まった7回目の「古典朗読訪問」は、2017年10月24日(火) 江東区立第二辰巳小学校。5年生108人を対象に、教科書に出てくる古典5作品(竹取物語・平家物語・徒然草・枕草子・おくのほそ道)を45分間という要望。原文朗読・現代語訳・解説、更に映像(原文は全て大きな字で出し、美しい写真、由緒ある絵巻物や絵本からの画像約50枚作成)を駆使し、古典の心と面白さを伝えて参りました。訪問者は阿部・伊藤・稲葉・佐藤・田中・鶴多

朗の6人、加賀美先生の監修のもと、それぞれが力を尽くしたその成果は？「来期もお願いします」でした。

(古典研究会 田中邦子)



『枕草子』の画像と『竹取物語』に聞き入る生徒たち。

大盛況だった105回、106回「八重洲朗読会」



八重洲朗読会105回、106回のチラシ。

第105回は2017年11月25日、第106回は2018年1月13日。それぞれ約100人、約130人のお客様をお迎えし充実した朗読会でした。100回を越えているので延べ一万人近くになります。しかも「この朗読会に初めてきました」という方が毎回いらっしゃいます。何度も積み上げるあゆみと新しい交流がある八重洲朗読会は、末永く心地よい緊張と新しい息吹を伝えてくれています。100回までのチラシと写真で綴ったアルバムを作り、全作品一覧表も完成、今までの記録を大事に残しています。

(塩田睦子)



105回の参加者。



106回の参加者。



八重洲朗読会1～100回アルバムのCD。

「朗読」をめぐるエッセイ

バラの朗読会

吉田周子

神奈川県から母や姉が住む大網白里市に引っ越して10年、友人に誘われて「NPO日本朗読文化協会主催・第3回朗読コンクール」に参加しました。

これがきっかけで朗読文化協会に入会したのです。活動拠点は東京に移りましたが、地元でも聴いて貰いたいと朗読会のスタイルを模索していて、我が家の薔薇が咲くころ薔薇のお茶会と組み合わせようと思立ちました。

その後アンサンブル仲間と合奏をしたり薔薇に囲まれてお茶会を楽しむスタイルに落ち着きました。今年で7回目にな

ります。昨年は私の朗読と友人ご夫婦に津軽弁で「アメニモマケズ」を読んで応援していただきました。

元気なうちはこうして地域の方に親しまれる朗読会を続けていこうと思います。



掲示板 会員の朗読会と活動情報(2018.2月~2018.10月)

日時	公演名	場所	出演者名
2月04日	第67回とんからりん 森鷗外その3「舞姫」	湯島・コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
2月18日	第11回「虹」	菊川駅/ピロサーフ甘者屋	永井喜代子
2月19日	第12回山本周五郎 悠日朗読会「扇野」	宇都宮・ギャラリー悠日	青木ひろこ
2月24日	土浦日本大学中等教育学校公演	オーデトリウム	飯島晶子
3月01日	リーディング・カフェVol.22「版画の向う側の物語」	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
3月03日	ひな祭り朗読会	東武レバントホテル東京「松桐」	永井喜代子
3月10日	ハートストリングス語りと朗読の会	阿佐ヶ谷ハートストリングス	内藤和美
3月12日	イギリス館で楽しむ3人の語りの会	横浜山手・イギリス館ホール	加藤敬子
3月16日	春宵幻想夜話 アコーディオンとともに	宇都宮・コム・ラ・ボア・ラクテ	青木ひろこ
3月17日	八重洲朗読会	八重洲ブックセンター	飯島晶子・五十嵐和子・稲葉慶子・柴田純子
3月17日	セントパトリックスデーによせて	うつのみや妖精ミュージアム	青木ひろこ
3月18日	歌語りサロン	ライブスペース奇聞屋	内藤和美
3月23日	かもめ朗読会	高輪区民ホール	かもめ登録会員
3月25日	プロジェクトR'6	アートギャラリーRom maai	松本由美子
3月25日	第6回綾・紋の会朗読会	茂原市立図書館	佐藤すみ江
3月31日	スプリングハズカム	かがやきプラザきららホール	飯島晶子朗読教室
4月01日	第68回とんからりん	湯島・コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
4月06日	春うらら朗読会	ティアラこうとう小ホール	蒔村三枝子教室
4月19日	春の朗読会	錦糸町テルミナ6階	永井喜代子
4月20日	卯の花月の音楽&朗読	牛久甲子亭	飯島晶子
4月21・22日	ぶれさんぼうず 春公演	下北沢・しもきた空間リパティ	内藤和美
5月03日	リーディング・カフェVol.24「葉桜の季節に読む」	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
5月06日	第8回 朗読の会 楽	北とびあスカイホール	吉川京美・関まさ子・田中邦子
5月12日	つくば朗読館	つくば市立ノバホール・小ホール	内藤和美
5月14日	坂口安吾 in 松之山	新潟県大棟山美術博物館	飯島晶子
5月24日	第13回山本周五郎 悠日朗読会	宇都宮・ギャラリー悠日	青木ひろこ
6月03日	第69回とんからりん	湯島・コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
7月01日	リーディング・カフェVol.25「泉鏡花を読む」	宇都宮・カフェ・インク・ブルー	青木ひろこ・茂呂久美子
7月04日	ことのはぐさ	なかの芸能小劇場	内藤和美
7月05日	ルレシ朗読サロンの会	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
8月09日	被爆ピアノコンサート	牛久甲子亭	飯島晶子
8月10日	被爆ピアノコンサート～未来への伝言～		飯島晶子
9月01日	木の実朗読会Vol.11	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
9月13日	語りの会 ぼてふり	深川江戸資料館・小劇場	内藤和美
9月13日	リーディング・カフェVol.26	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
9月17日	朗読を楽しむ会公演Vol.20	栃木文化会館小ホール	茂呂久美子
9月25日	月結公演「能物語」<平家女人抄>	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
10月7日	第70回とんからりん	湯島・コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美

事務局からのお知らせ

年会費が12,000円になります

昨年新入会員の会費を年12,000円に設定しました。今年からは既会員の方の年会費も値下げをすることになりました。

事務局移転のお知らせ

2018年3月より「NPO日本朗読文化協会事務局」は下記に移転します。お近くにおいでの際は折りはお立ちより下さい。
〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第1白川ビル3階B-2

★会員更新のお願い

2018年度年会費の払込用紙を同封しました。3月末日までにお手配をお願い致します。

★ボランティア保険加入のご案内

全会員を基本コースに加入申込み致します。追加で天災コースをご希望の方は加入料300円を会費と共に振込下さい。通信欄に必ずその旨をご記載下さい。

★八重洲朗読会登録審査

八重洲朗読会への登録審査をご希望の方は、3月末日までに事務局までお申込み下さい。

★会員情報2017年8月～2018年1月新入会

田村みどり・南條けさ枝・中西拓子・江刺家舞・石川貴子・武藤千恵子・藤江絹子・村林正敏

編集後記

年末よりの寒さが年を越しても続いております。本年もよろしくお願いいたします。書籍と同様に広報も関心をもって読んでいただかなければ課題と思って望んでおります。課題に向って本年も歩んで参りたいと存じます。今回の発行にあたりまして記事のご依頼をさせていただきました皆様、ありがとうございました。

(伊吹よし子・佐藤すみ江・早川とし子・柳瀬孝子)